

気管カニューレサクシオン管から酸素を送気しながらの嚥下訓練について

はじめに

カニューレサクシオン管から酸素を送気しながらの直接嚥下訓練を嚥下造影検査(以下、VF)とスピーチ・ウェーブを用いて検証したので報告する。

方法

複管スピーチカニューレ装用の2症例に対しサクシオン管から(3L/4L)の酸素を常時送気し右側臥位/仰臥位リクライニング姿位40度。試料はトロミ2%茶、ゼリーを用いてVFを実施した。VF時にスピーチ・ウェーブを装着し、嚥下動態と同時に色別表示機能と波形形状で比較検証した。

結果

送気ありのトロミ茶では嚥下前に喉頭への侵入を認めたが、送気により咽頭へ吹き戻され、誤嚥なく嚥下が可能であった。また、ゼリーでは喉頭侵入および誤嚥は認めなかった。一方、送気なしゼリーでは嚥下中誤嚥を認める結果となった。トロミ茶は送気ありの際に喉頭侵入を認め、送気効果により誤嚥を防げたことから誤嚥リスクが高いと判断し中止した。色別・波形比較では、健常者では嚥下時に強い音を認め識別表示で赤色が出現したのに対し、症例の嚥下では酸素の有無に関わらず弱い音の緑色であり、酸素を送気したことで嚥下音の上昇は認めなかった。

考察

症例内、症例間の比較において送気の有無によって色別・波形に大差を認めなかった。ゆえに酸素の送気は飲み込みに影響を与えないと推察した。しかし、送気により喉頭侵入した試料を咽頭へ吹き戻す「吹き戻し効果」を認めた事から、カニューレ装用者の嚥下訓練に一定の効果を示唆したと思われる。